

# 「宮沢政策」注文

▼3

不安を与えている。そんな中で天皇が訪中されることは、『日中一体化』という誤解を生みかねず、日本は世界から孤立しかねない。だから、できれば天皇訪中は避けたい方がいいのだが、既に宮沢首相や渡辺外相が中国に対して国際公約を与えた形になっており、避けられないことだろう。

—多数の問題点がありながら日本政府が天皇訪中を決断した背景は？  
「日中友好という今まで

## 天皇訪中

世界からの孤立招く  
—天皇訪中問題をどう考えるか？  
「天安門事件以降の中国の対外姿勢は、人権抑圧を断固として正当化するという立場だ。しかも、中国は最近国防費を大幅増額している上、第三世界を中心に

武器輸出などを通じて自国の影響力を確保しようとしている。中国は冷戦後の新たな世界戦略を構築しようとしているのだ。このような姿勢は、最近の南沙諸島への中国の態度にも見られるようにアジア諸国に大

の長い間の外交的情性が根本にある。常に中国を刺激しない、ということをやってきた。中曽根首相(当時)の靖国神社参拜問題や、教科書問題でも中国から何かいわれると、日本は政治決着をつけて中国へ

の援助を拡大するというパターンを繰り返してきた」  
友好親善に徹せよ  
—天皇訪中のメリッとは何もないのか。  
「天皇訪中が実現しない

の援助を拡大するというパターンの繰り返しを繰り返してきた。中曽根首相(当時)の靖国神社参拜問題や、教科書問題でも中国から何かいわれると、日本は政治決着をつけて中国へ

の援助を拡大するというパターンの繰り返しを繰り返してきた。中曽根首相(当時)の靖国神社参拜問題や、教科書問題でも中国から何かいわれると、日本は政治決着をつけて中国へ

の援助を拡大するというパターンの繰り返しを繰り返してきた。中曽根首相(当時)の靖国神社参拜問題や、教科書問題でも中国から何かいわれると、日本は政治決着をつけて中国へ

の援助を拡大するというパターンの繰り返しを繰り返してきた。中曽根首相(当時)の靖国神社参拜問題や、教科書問題でも中国から何かいわれると、日本は政治決着をつけて中国へ

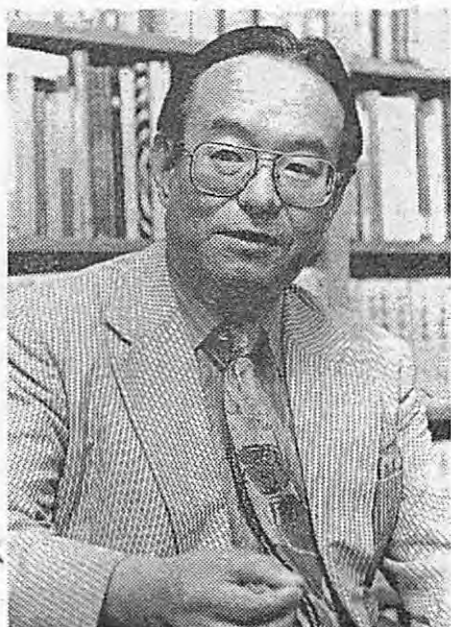
# 対中外交の情性断て

—日本の対中外交の問題点は？  
「従来の二国関係の座標軸の中でしか日中関係を展望できないという姿勢に問題がある。グローバルな視

点で日中関係を見ることが必要だと思う。最近の米国の台湾政策が、今やアジアには台湾のモノと金があふれている。

の貿易や交流を進めてきた。今やアジアには台湾のモノと金があふれている。

東京外語大教授 中嶋 嶺雄氏



なかじま・みねお  
1936年、長野県生まれ。東京外国語大中国語科卒、東大大学院国際関係論課程卒。現在、東京外国語大教授(国際関係論)。著書「北京烈烈」ほか。

「日中国交二千年は、日台(台湾)断交の二千年でもある。台湾は国連にさえ入っていないのに、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)う」